

空襲激化に伴うドイツ軍需生産の 損害増大と労働配置 1944/45（上）

中 村 一 浩

空襲激化に伴うドイツ軍需生産の 損害増大と労働配置 1944/45 (上)

中 村 一 浩

Kazuhiro NAKAMURA

目次

- 一、連合軍の空襲の激化
1. ドイツ本土空襲をめぐる英米空軍の戦略及び戦術
 2. ドイツ本土空襲の激化とドイツ空軍の戦力低下

[Kurzfassung]

Der deutsche Arbeitseinsatz unter zunehmenden Bombenangriff 1944/45 (Teil 1)

Die Luftwaffe verlor bis 1944 viele Kampfflugzeuge und Piloten. Im Sommer 1944 standen Großbritannien und USA viele Tagbomber und Nachtbomber als strategische Angriffskraft zur Verfügung. Das Ölbombardement beeinträchtigte die deutsche Kriegs- Maschinerie auf das schwerste. Seine Auswirkungen vergrößerten sich immer noch.

一、連合軍の空襲の激化

1. ドイツ本土空襲をめぐる英米空軍の戦略及び戦術

イギリス空軍によるドイツ本土への爆撃は、昼間爆撃の多大な損失と乏しい戦果に直面して、1940年以降の試行錯誤の挙句、1941年には夜間爆撃に完全に転換してゆく。1940年の所謂「バトル・オブ・ブリテン」に勝利し⁽¹⁾、ドイツ空軍の戦力が累増する損失の結果として漸減してゆくと、西部戦線の空の攻防は英空軍の攻勢と独空軍の守勢へと攻守ところを換えていった。この間の両軍の戦力、損失等の推移は表2の如くであるが、1942年以降のアメリカ空軍（当時は陸軍航空隊⁽²⁾）の爆撃参加により、ドイツ国民の戦意喪失を究極の狙いとする都市爆撃は次第に熾烈化してゆくこととなった。1942年2月14日ドイツの多数の都市が爆撃目標として指定され⁽³⁾、とりわけ都市の中心部を重点的に爆撃して戦意低下をもたらす為に、大編隊による夜間の絨毯爆撃が本格化していったのである。

1943年1月の「カサブランカ会談」では、ドイツの経済、産業、軍事体制⁽⁴⁾を爆撃により破壊の度を強め、士気を挫くことが改めて確認・目的共有され、英空軍は夜間爆撃を、米空軍は昼間爆撃をそれぞれ分担することとなった。これは、英空軍は夜間の都市爆撃に拘り、米空軍は昼間の軍需生産拠点への精密爆撃に拘った結果である。⁽⁵⁾

キーワード：ドイツ空軍、イギリス空軍、爆撃
Stichwörter：Luftwaffe, RAF, Bombardement

表 1 ドイツの工業生産の推移 1919-1944年 (1928年=100)

	総生産	生産財生産	投資財生産	消費財生産	軍需生産
1919	37	32	-	(50)	-
1920	54	56	-	51	-
1921	65	65	-	69	-
1922	70	70	-	74	-
1923	46	43	-	57	-
1924	70	65	-	81	-
1925	83	81	79	85	-
1926	76	78	74	80	-
1927	98	97	107	103	-
1928	100	100	100	100	-
1929	100	103	103	98	-
1930	87	85	84	95	-
1931	78	61	54	90	-
1932	58	46	35	78	-
1933	66	54	45	83	200
1934	83	77	75	93	320
1935	96	99	102	91	610
1936	107	113	117	98	780
1937	117	126	128	103	960
1938	125	136	140	108	1500
1939	(135)	150	144	118	1900
1940	(140)	160	106	110	3300
1941	(155)	180	97	113	3350
1942	(160)	190	78	102	4800
1943	(175)	220	67	107	7550
1944	(180)	230	56	100	9400
1945	-	-	-	-	-

出所 R.Berthold (Hrsg.), Produktivkräfte in Deutschland 1917/18 bis 1945, Berlin 1988, S.15.

表2-1 投下爆弾量 (t) 1940-42年

	独→英	英→独(本土及び占領地域)	米→独(本土及び占領地域)
1940年	36844	13033	-
1941年	21848	31704	-
1942年	3260	45561	1561

出所 J. ピムロット (田川憲二郎 訳), 『第二次世界大戦』, 河出書房新社 2000年, 53頁。

表2-2 爆撃機の損失 1940-42年

	ドイツ	イギリス	アメリカ
1940年	1653	494	-
1941年	1814	914	-
1942年	2388	1400	30機

出所 同所

2. ドイツ本土空襲の激化とドイツ空軍の戦力低下

英米空軍による爆弾投下量は急増していった(表2-1)が、当初必ずしも所期の成果が上がりなかった。甚大なる損害(表2-2)を被りながらも試行錯誤を繰り返しつつより効果的な爆撃を行う地道な努力を重ねていった英米空軍の絶え間ない空襲に対抗する為、ドイツは「カムフーバー線」⁽⁶⁾と称せられる対空レーダーを核とした優れた防空システムを1942年に完成したものの、対応が後手後手に回った感は否めない。既にドイツではジェット戦闘機の開発が進捗していたにも拘らず、ヒトラーがこれを爆撃機として転用することを命じた為、防空戦闘は手薄なレシプロ戦闘機が当面担うこととなり、夜間戦闘機が当初かなりの戦果をあげたものの、その戦力消耗(表7-1及び7-2参照)、更には英米の爆撃機に航続距離の長い護衛戦闘機が随伴するようになると、ドイツ本土上空の制空権は完全に英米空軍の手中に帰し、ドイツの戦争遂行能力は軍需産業の破壊と燃料生産の減退(表4参照)により急速に弱体化していったのである。1944年秋にドイツの軍需生産が最後のピークを迎えたことはよく知られている(表1参照)が、この年から空襲が一層熾烈なものとなっていったことは投下された爆弾量(表3-1)を見ればよくわかる。この間空襲はほぼ絶え間なく続けられており、表5を一見してドイツ工業の心臓部たるルール工業地帯は特に重点的な爆撃目標として執拗に狙われていたことが明らかである。

表3-1 英米空軍によるドイツ軍事目標への爆撃 1943/44年

年/四半期	総投下爆弾量 (t)	うち重要軍事 生産拠点	うち航空機 生産拠点	燃料生産・貯蔵 施設	交通施設
1943/Ⅲ	60018	4327	1880	-	1916
/Ⅳ	52734	8255	969	-	6138
1944/Ⅰ	103745	26584	7189	177	17763
/Ⅱ	302595	127397	7530	21240	97257

出所 W.Bartel,u.a. (Hrsg.) „Deutschland im zweiten Weltkrieg,Bd.5,S.348.

表3-2 1944年第四四半期に於ける米空軍の爆撃対象

	爆弾投下量	比率 %
軍事施設	9,102	8.1
交通機関	56,584	50.6
石油施設	21,745	19.5
市街地	4,384	3.9
その他目標	20,062	17.9
合計	111,877	100.0

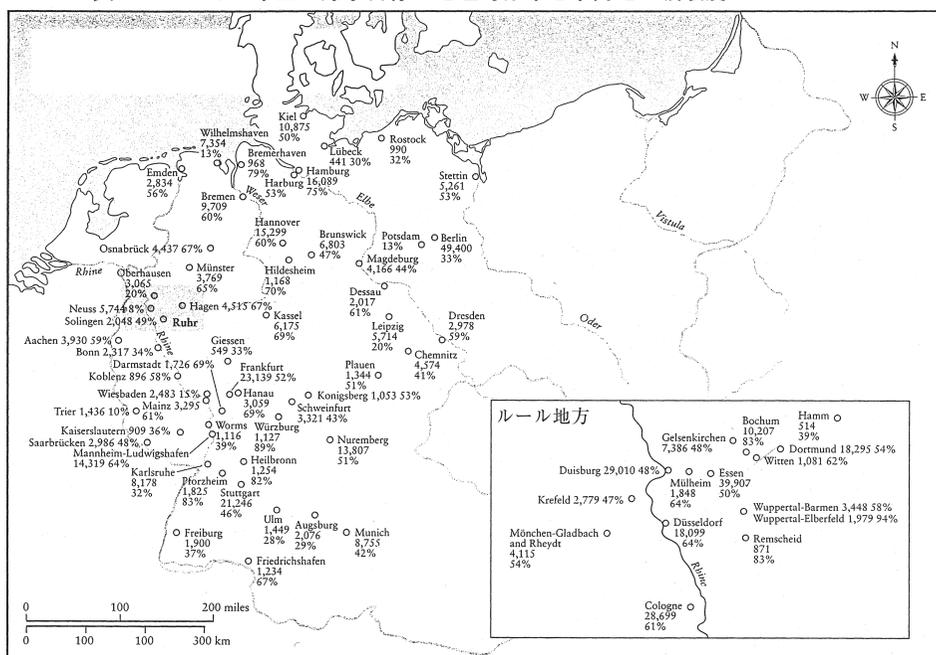
出所 Bartel,u.a. (Hrsg.) „a.a.O.,Bd.6,S.163.

表 4 空襲下のドイツの燃料需給 1944年4-12月

	投下爆弾量 (t)	軽油生産量 (t)	ガソリン 生産量 (t)	航空燃料 生産量 (t)	航空燃料 保有量 (t)	航空燃料 消費量 (t)	航空燃料 備蓄量 (t)
1944年 4 月	570	89000	125000	161000	188000	144000	338000
5 月	5146	74000	93000	150000	180000	171100	314000
6 月	17697	66000	76000	52000	166000	159000	256000
7 月	21404	62000	56000	29000	—	—	—
8 月	26320	65000	60000	16100	62000	96900	83000
9 月	10997	52000	48000	7000	99000	51000	41000
10 月	12542	66000	57000	18700	99000	45200	53000
11 月	35023	73000	50000	39200	63300	34000	65000
12 月	13900	75000	51000	25000	—	—	—

出所 Ebd.,Bd.6,S.161.

表5-1 ドイツ本土の爆撃目標の地理的分布と市街地の破壊度 1942-45



出所 R. Overy, The Bombers and the bombed, Allied Air War over Europe, 1940-1945, Viking Penguin, NY, 2013, p.xxv.

表5-2 1944年8-12月に於ける英空軍のドイツ都市への空襲状況

時期 (1944年)	爆撃目標都市	投入航空機数	爆弾投下量 (t)	喪失航空機数
8月 12-13日	ブラウンシュヴァイク	379	1275	27
12-13日	リュッセルスハイム	297	964	20
16-17日	シュテットェイン	461	-	5
25-26日	リュッセルスハイム	412	-	15
26-27日	キール	382	12381	17
26-27日	ケーニヒスベルク	174		4
29-30日	ケーニヒスベルク	189	492	15
29-30日	シュテットェイン	403	1341	23
9月 12-13日	フランクフルト・アム・マイン	387	1556	17
15-16日	キール	490	1448	6
23-24日	ノイス	549	-	7
26-27日	カールスルーエ	237	-	2
27-28日	カイザースラウテルン	227	-	2
10月 5-6日	ザールブリュッケン	551	2073	3
6-7日	ドルトムント	523	1669	5
14日	デュースブルク	1063	4782	15
14-15日	デュースブルク	1065	4547	6
15-16日	ヴィルヘルムスハーフェン	506	2136	7
19-20日	シュトゥットガルト	583	2446	6
23-24日	エッセン	1055	4538	8
25日	エッセン	771	3687	4
28日	ケルン	733	2964	5
30-31日	ケルン	905	4040	-
10月-11月1日	ケルン	508	2402	1
11月 2-3日	デュッセルドルフ	992	4484	16
4-5日	ボーフム	749	3332	25
6日	ゲルゼンキルヘン	738	3288	5
27-28日	フライブルク	381	1696	1
11月30-12月1日	デュースブルク	576	2111	3
12月 4-5日	ハイルブロン	292	1267	12
4-5日	カールスルーエ	535	2309	1
12-13日	エッセン	550	2377	6
17-18日	デュースブルク	523	1808	3
17-18日	ウルム	330	1294	2

出所 Ebd., S.166。

表6 1944年に於ける英米軍の空襲による人的損害及び建物の損害の推移

1944年	人的損害		建物の損害			
	死者	負傷者	全壊	大破	中破	小破
1月	4568	7045	6273	9089	10147	67245
2月	4517	8866	8735	7644	9697	43472
3月	4665	16136	14744	14386	16298	71870
4月	7354	13763	14055	16596	19653	78000
5月	7152	15231	7289	9417	14398	56042
6月	5914	6707	3038	4097	5408	31359
7月	7865	15608	11061	12388	15145	64209
8月	9659	15764	16377	11362	9846	44591
9月	14605	21520	29924	20531	26235	98266
10月	17127	22789	34811	31208	34518	113789
11月	12716	16097	18340	18079	27274	107989
12月	15262	16262	-	-	-	-

出所 Ebd., Bd.5, S.157 und Bd.6, S.167.

表7-1 1944年第一四半期に於けるドイツ空軍の戦力と損失の推移

1944年	1月31日		2月29日		3月31日		4月30日		5月31日	
	保有機数	損失								
短距離偵察機	340	81	330	67	403	84	376	133	341	135
長距離偵察機	336	67	348	70	324	89	306	81	312	85
戦闘機	1670	810	1747	905	1696	1176	1648	1377	1683	1590
夜間戦闘機	557	189	618	159	565	247	602	247	698	307
戦闘爆撃機	616	264	719	171	776	315	799	393	872	323
重戦闘機	299	95	247	122	251	95	321	114	305	129
爆撃機	1624	468	1441	557	1331	512	1201	509	1240	405
輸送機	956	99	975	150	954	172	892	181	934	153
水上機	262	45	273	23	262	37	264	40	257	43
気象観測機	70	25	73	6	80	16	79	17	83	15
合計	6730	2143	6771	2230	6642	2743	6488	3092	6725	3185

出所 Ebd.,Bd.5,S.165.

表7-2 1944年第一四半期に於ける各戦線の主力機損失

	東部戦線	本土防空	西部戦線	イタリア戦線
偵察機	373	91	123	144
戦闘機	774	3178	1719	887
夜間戦闘機	39	903	145	26
戦闘爆撃機	939	113	15	325
爆撃機	484	654	1215	325
輸送機	320	112	111	112

出所 Ebenda.

表8 1944年上半期に於けるドイツ国内の空襲による人的・物的損害

1944年	人的損害		建物の損害			
	死者	負傷者	全壊	大破	中破	小破
1月	4568	7045	6273	9089	10147	67245
2月	4517	8866	8735	7644	9697	43472
3月	4665	16136	14744	14386	16298	71870
4月	7354	13763	14055	16596	19653	78000
5月	7152	15231	7289	9417	14398	56042
6月	5914	6707	3038	4097	5408	31359
合計	34170	67748	54134	61229	75601	347988

出所 Ebd.,S.157.

注

- (1) 1940年10月16日ヒトラーはイギリス侵攻作戦(所謂「アシカ作戦」)の継続を断念し、ソ連侵攻作戦へと方針を転換する。
- (2) 空軍として独立したのは、戦後の1947年9月18日のことである。
- (3) ビムロット、前掲書、52頁。
- (4) ドイツの工業生産の推移は、表1参照。
- (5) 1943年6月に両者は、同一歩調を取ることを断念した(上掲書、144頁)。
- (6) それまで目視に依存するところが大きであったドイツの防空体制は、ようやく1942年秋に至りレーダーを核として昼夜の防空戦闘機隊が有機的に結合された防空システムに転換され始める。その一応の完成を見たのは、1943年末のことであった。まさに遅きに失したと言ふべきであろう。Overly,op.sit.,p.79.